

公衆衛生学・疫学

責任者・コーディネーター	地域包括ケア講座 野村 陽子 教授		
担当講座・学科(分野)	衛生学公衆衛生学講座		
対象学年	3	区分・時間数	講義 22.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	2 単位		

・学習方針（講義概要等）

公衆衛生学は、保健・医療・介護・福祉を含むきわめて広範囲な学問である。それぞれに対応した法律があり、法体系について学ぶことも大切である。また、医療・介護に至らないようにする予防医学も公衆衛生学の重要な役割である。分野別には、地域保健、母子保健、学校保健、産業保健、食品保健等がある。それぞれの分野での多様な疾病の疫学的な特徴と予防方法について学び、そのエビデンスを提供する疫学についての知識と技法を習得する。

・教育成果（アウトカム）

1. 疫学研究方法論を学ぶことにより、環境と健康の相互関連を説明できる。
2. 疫学研究成果を学ぶことにより、生活習慣と健康の関連の重要性を説明できる。
3. 健康状況の把握方法、生活習慣や労働による疾病予防の方法論、施策、行政との関連を学ぶことにより、疾病予防の重要性について説明できる。
4. 将来、保健師として社会に関わる際の保健医療制度、保健活動の基本的な仕組みについて学ぶことにより、社会における予防の重要性について説明できる。

【学位授与方針と当該授業科目との関連】

ディプロマ・ポリシー：3,4,7

・到達目標（SBO）

1. 疫学の目的と手法について概略を説明できる。
2. 母集団と標本、バイアスについて概略を説明できる。
3. 信頼性と妥当性について説明できる。
4. 因果関係について説明できる。
5. 有病率、罹患率を説明できる。
6. 敏感度、特異度、陽性反応適中度、陰性反応適中度について説明できる。
7. 臨床疫学の概略について説明できる。
8. 年齢調整を直接法、間接法を用いて計算できる。
9. 予防の概念について説明できる。

10. 主要疾患の動向について説明できる。
11. 世界の保健問題について解説できる。
12. 保健、医療、福祉の制度について説明できる。
13. 栄養・運動と健康の関連について説明できる。
14. 喫煙の健康影響について説明できる。
15. 障害者の医療と福祉について説明できる。
16. 産業保健の概略について説明できる。
17. がん・循環器疾患の危険因子と予防方法について説明できる。

・ 授業日程

(矢) マルチ 4-A 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	授業内容/到達目標
4/12	金	3	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	疫学総論 ・ 疫学の目的と手法について概略を説明できる
4/19	金	3	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	母集団と標本・バイアス ・ 母集団と標本、バイアスについて概略を説明できる
4/26	金	3	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	信頼性と妥当性、因果関係論 ・ 因果関係について説明できる
5/10	金	3	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	疫学指標 ・ 有病率、罹患率を説明できる
5/16	木	3	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	スクリーニングと臨床疫学 ・ 敏感度、特異度、陽性反応適中度、陰性反応適中度について説明できる ・ 臨床疫学の概略について説明できる
5/20	月	3	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	年齢調整 ・ 年齢調整を直接法、間接法を用いて計算できる
5/30	木	3	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	公衆衛生学総論 ・ 予防の概念について説明できる

6/6	木	3	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	主要疾患とその動向 ・ 主要疾患の動向について説明できる
6/13	木	3	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	国際保健 ・ 世界の保健問題について解説できる
6/17	月	3	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	医療関係法規と制度 ・ 保健、医療、福祉の制度について説明できる
6/27	木	3	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	栄養・運動と健康 ・ 栄養・運動と健康の関連について説明できる
6/28	金	2	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	喫煙と健康 ・ 喫煙の健康影響について説明できる
7/11	木	3	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	障害者の医療と福祉（精神保健を含む） ・ 障害者の医療と福祉について説明できる
7/12	金	2	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	産業保健 ・ 産業保健の概略について説明できる
7/17	水	3	衛生学公衆衛生学講座	坂田 清美 教授	がん・循環器疾患の危険因子と予防 ・ がん・循環器疾患の危険因子と予防方法について説明できる

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	公衆衛生マニュアル 2019 第 37 版	柳川洋、他編	南山堂	2019
参	疫学マニュアル 改訂 7 版	柳川洋、他編	南山堂	2012

・成績評価方法

定期試験 80%、授業参加態度 20%にて評価する。講義中に口頭試問や議論形式の評価を行い、学生にフィードバックする。

・特記事項・その他

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

シラバスに記載されている内容及び各回に配布提示される教科書・レジメを用いて事前学習（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学習の時間は最低 30 分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。授業ではモデル・コア・カリキュラムの内容に止まらず必要に応じて最新の研究成果を教示する。

【授業における試験やレポート等の課題に対するフィードバック】

授業の中で試験やレポートを課す場合は次回の授業で解説を行う。

【保健師助産師看護師学校養成所指定規則教育内容】

保健師（別表 1）：疫学

看護師（別表 3）：専門基礎分野 健康支援と社会保障制度

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	プロジェクター（VPL-FWZ60）	1	講義用スライド投影
講義	書画カメラ（P-100）	1	講義用資料投影